



組織で支える「絆づくり」と「居場所づくり」 全ての子どもたちが安心して2学期を迎えるために

西部教育局
お役立ち情報
令和5年7月号

学期末の終わり方や夏休みの過ごし方は、2学期のスタートに重要な意味をもちます。全ての子どもたちが安心して2学期を迎えるための取組について、学校全体で共通理解を図りましょう。

共通理解を図るテーマ例① 2学期につながる期末懇談の実施について

期末懇談の目的ごとにポイントを整理しましょう。
例) A 保護者との信頼関係の構築 B 児童生徒理解を深める
C 次なる一手の検討(作戦会議) D 組織的、継続的な支援についての共有

A・Bのポイント

「先生は普段見てくれている」という実感を保護者に感じ取ってもらうために、
子供の良さや様子を具体的に伝える。☎**担任以外からの「ほめ言葉」も効果的!**

担任が子供の様子を伝えるだけの懇談にならないよう、保護者から様々な情報(家庭や地域での様子等)を引き出しましょう。

- ◆家庭の様子や親子関係
- ◆保護者から見た友達関係
- ◆これまでの成育歴など

Cのポイント

課題の克服方法や夏休みの生活プラン等について保護者と作戦会議をする。

規則正しい生活や苦手教科の克服等、充実した夏休みにするために、**夏休み前に保護者と次の一手を話し合う**ことが重要です。

休みの日は、一日中ゲームばかりしているんです…



ゲーム機には、「プレイ時間の設定」機能もあります。家で活用してみませんか?

Dのポイント

気になる子供については、今後も継続的、組織的に支援することを伝える。

友達から嫌なことを言われているみたい…



他の先生とも協力して、今後も様子を見ていきます。**いつでもご相談ください。**

時々、学校に行きながらいないことがあるんです。



毎日声をかけてみます。**定期的に相談をさせてください。一緒に作戦を考えましょう。**

共通理解を図るテーマ例② 夏休み中の子供たちを見守る取組について

2学期のスタートに不安を抱きそうな子供の姿を想定してみましょう。

現在は出席して頑張っているが、前年度までに不登校経験があった。



頑張りすぎた1学期の反動モチベーションの低下
2学期への不安
基本的な生活習慣の乱れ



1学期や前年度までの実態から、夏休みの宿題を完了させることが困難だと予想される。

学業不振や友人とのトラブル等、精神的動揺が生じる出来事があった。



家庭で十分なサポートが得られにくく、昼夜逆転等、生活が乱れる可能性がある。



大きな行事に対してプレッシャーを感じやすい。



取組のポイント

電話連絡や家庭訪問を実施し、夏休み中の子供の状況を把握する。

「気にかけているよ」「話を聞くのを楽しみにしているよ」というメッセージが、子供に伝わる大切です。



2学期に向けて、何か気になることはないかな?

まだ終わっていない宿題を先生と一緒にしませんか? 来られる時間に、学校に来てみませんか?



1学期中に欠席が目立つ児童生徒については、**夏季休業前や夏季休業中に支援**することで、2学期始めの円滑なスタートにつながります。

- ～夏季休業前や夏季休業中の支援(例)～
- 児童生徒と一緒に夏季休業中の計画を立てる。
 - 夏季休業中の登校日を設定したり、部活動等の参加日を確認する。
 - 悩みごとや困ったことがあった時の相談方法について話し合う。

